



第17期

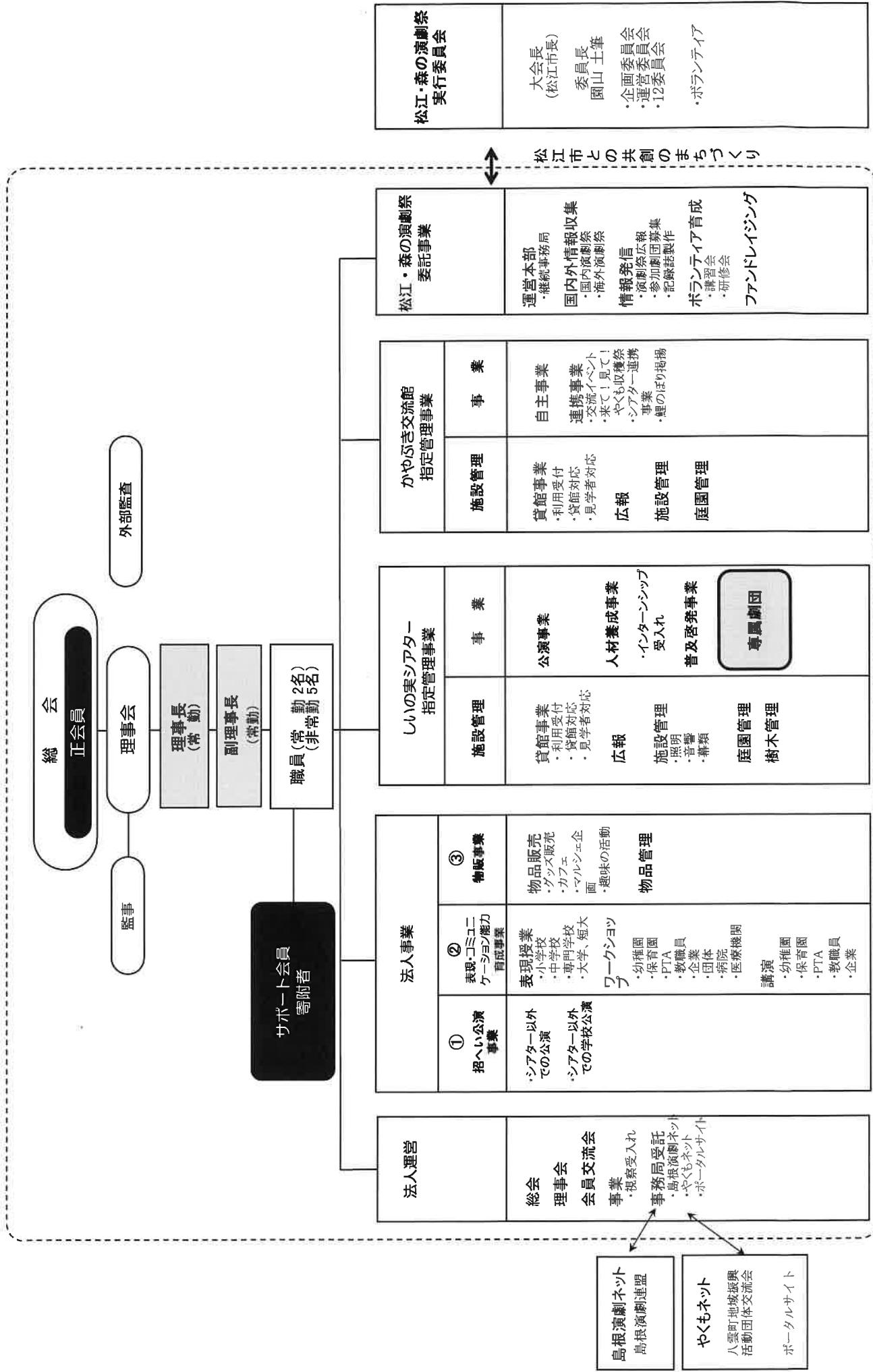
事業計画書

2021(令和3)年4月1日～2022(令和4)年3月31日

認定特定非営利活動法人あしぶえ

＜認定NPO法人あしぶえ 組織図＞

2021(令和3)年4月1日現在



<令和3年度事業計画>

法人運営

項目	「第16回通常社員総会」開催
内容	2020(令和2)年度の事業報告、決算報告、会費報告の報告を行う。 2021(令和3)年度の事業計画、収支予算の報告を行う。
概要	【日時】 2021(令和3)年5月16日(日)15:00～17:00 【会場】 しいの実シアター

項目	「理事会」開催
内容	年に6回程度、開催しNPOの運営について協議を行う。

項目	交流の夕べ	中止
内容	総会後に交流の夕べを開催する予定であったが、新型コロナ感染拡大防止の観点から中止とした。	
概要	【日時】 2021(令和3)年5月16日(日)18:00～20:00 【会場】 しいの実シアター 休憩棟	

項目	やぐもネット事務局とポータルサイトの運営
内容	やぐもネットの事務局として、八雲町内各団体の運営を支える活動を行う。 八雲町の情報発信ツール「ようこそ八雲へ」での情報発信を行う。

項目	島根演劇ネット事務局
内容	島根演劇ネットの事務局として、運営を支える活動を行う。 島根文化団体連合会の加盟団体として、「次世代育成事業」の事務局も行う

<令和3年度事業計画> 法人事業 ① 招へい公演

しいの実シアター指定管理業務以外に実施している自主事業分を記載します。
公演は2事業行います。

公演事業1

事業名	地域連携演劇公演 「セロ弾きのゴーシュ」宇部公演 	入場者数 参加者数	コロナのため 約250人
趣旨・目的	<p>山口県宇部市が市制100周年にあたって、3週にわたって演劇フェスティバルを開催することになり、「セロ弾きのゴーシュ」の上演依頼があった。</p> <p>山口県の観客にも、しいの実シアターの存在を伝え、シアターの認知度を高め、支援者やファンの輪を広げたい。</p> <p>山口県周辺の人たちを「松江・森の演劇祭」へ誘客する好機会でもある。</p>		
事業の概要	<p>【演目】 セロ弾きのゴーシュ（上演時間60分） 【原作】 宮沢賢治 【演出】 園山土筆 【実施会場】 山口県宇部市 宇部市民会館（500席） 【実施日程】 令和3年8月29日（日） 【実施回数】 1回 【対象】 5歳から高齢者 【関連事業】 ゲネプロ公開し、演劇へ興味関心を持つ人を増やす。</p>		

公演事業2

事業名	地域連携演劇公演 「セロ弾きのゴーシュ」米子公演 	入場者数 参加者数	コロナのため 約250人
趣旨・目的	<p>米子市淀江文化センターさなめホールからは、過去度々上演依頼がきており、今回初めて「セロ弾きのゴーシュ」を上演することになった。これにより、鳥取県の観客にも、しいの実シアターの存在を伝え、シアターの認知度を高め、支援者やファンの輪を広げたい。</p> <p>鳥取県周辺の人たちを「松江・森の演劇祭」へ誘客する好機会でもある。</p>		
事業の概要	<p>【演目】 セロ弾きのゴーシュ（上演時間60分） 【原作】 宮沢賢治 【演出】 園山土筆 【実施会場】 米子市淀江文化センター「さなめホール」（500席） 【実施日程】 令和3年12月26日（日） 【実施回数】 1回 【対象】 5歳から高齢者 【関連事業】 ゲネプロ公開し、演劇へ興味関心を持つ人を増やす。</p>		

<令和3年度事業計画>

法人事業 ②表現・コミュニケーション能力育成事業

しいの実シアター指定管理業務以外に実施している自主事業分を記載します。

人材養成事業として2事業 実施します

一部
中止

人材養成事業1

事業名	大学連携 コミュニケーションワークショップ 	入場者数 参加者数	のべ 800人
趣旨・目的	島根県立大学から、学生のコミュニケーション力の向上について指導依頼があり、平成24年から7年間継続実施している。学生は、小・中・高と「同調圧力」の中で育ち、他者の目を気にして言いたいことも言えない環境の中で暮らしている。そのため、コミュニケーションゲームの中で失敗しては笑い合い、様々な力をつけていくことで、自らの思いを他者に伝えていくことができるようになっていく。そして、ゲームの反復により、自分と他者の価値観の違いに気づき、他者の思いや視点を知ることができるようになる。		
事業の概要	<p>【実施日程】 令和3年4月～7月</p> <p>【実施会場】 島根県立大学松江キャンパス</p> <p>【実施回数】 19回</p> <p>【講 師】 園山土筆、有田美由樹、田中小百合</p> <p>【内 容】 コミュニケーションワークショップ 初対面の壁を取り払う、人に聞こえる声を出す、観察する、自分の意見を言う、相手に質問する、想像力を高めるなど。</p> <p>【対 象 者】 島根県立大学人間科学部保育教育学科1年生44人程度、 島根県立大学短期大学部保育学科1年生42人程度</p>		

人材養成事業2

事業名	地域連携 コミュニケーションワークショップ 	入場者数 参加者数	のべ 110人
趣旨・目的	<p>①近年、子どもたちは集団遊びをする機会が激減している。 学校の授業では話を聞くことができるが、放課後児童クラブなどで机・椅子が無くなると、收拾がつかなくなる状況がめずらしくないという。 これを打開するため、松江市社会福祉協議会から相談を受け、平成21年度から11年間毎年継続して子どもたちへのワークショップを行い、効果が認められている。</p> <p>②平成23年度から9年間毎年継続して在宅母子と地域の高齢者が参加するワーク</p>		

	<p>ショップを実施している。この事業の中で、我が子の言動を地域の高齢者が本当に喜んで温かい眼差しで見守る様子に勇気づけられ、乳児を連れて外出して地域と関わる気持ちになる母親がほとんどである。</p> <p>③新任助産師に初任者研修として、コミュニケーションワークショップを実施することにより高い評価を得て、11年間毎年継続実施している。</p> <p>間違いが許されない職種の人たちにとって、演劇の力を使ったワークショップは、自信がうまれていると評価されている。</p> <p>長年の継続の中で、過去の受講生が連携窓口担当になっているが、管理職にも受講を促したいと提案されている。</p>
事業の概要	<p>【実施日程】 令和3年5月～令和4年2月</p> <p>【実施会場】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①八雲児童センター どんぐり館 ②松江市内施設 ③島根県看護協会研修所(松江市) ④保育士スキルアップ研修(出雲市、浜田市) <p>【実施回数】 6回</p> <p>【講 師】 有田美由樹、田中小百合</p> <p>【対 象】 小学生、在宅母子、高齢者、新任助産師、保育士</p> <p>【内 容】 コミュニケーションワークショップ</p>
事業の特徴、利用者拡大のための工夫点又は戦略等	
<p>①は、集団遊びに慣れていない小学生に、大勢で活動する時のコツを伝える。</p> <p>②は、高齢者が参加する場合、運動機能の状況を見極め、実施内容を修正する。</p> <p>また、乳児を連れた母親と高齢者が一緒に参加する場合、乳児の言動を参加者全員で楽しむことができる内容にする。母親にとって、0歳から楽しめる事業に参加できる自信がつくようになる。</p> <p>③は、間違うことを恐れる新任助産師に、失敗から学ぶ有用性を伝えていく</p> <p>①②③共に、ゲームの意図を話しながら進めることで、シアターゲームへの興味を深め、その先の演劇にも興味をもってもらいシアターへの来場を促す</p>	

大学・地域以外での以外での コミュニケーションワークショップ*

		実施月日	実施場所	受講者数	回数
八 雲 町	松江市立八雲小学校 (次世代育成事業)	R3/6～R4/1	八雲小学校	延べ670名	21回
	松江市立八雲小学校 (芸術家派遣事業)	R/4/1/13	八雲小学校	70名	1回
	松江市立八雲中学校 2年生 (芸術家派遣事業)	R3/9/10	八雲中学校	65名	1回
	八雲中・東出雲中地域リーダー合同研修会コミュニケーション・ワーク	R4/1/16	八雲町公民館	50名	1回
松 江 市	松江市立義務教育学校八束学園 (次世代育成事業)	R3/11/24 11/26	松江市立義務教育 学校八束学園	延べ200 名	6回
	松江市立義務教育学校八束学園 (芸術家派遣事業)	R3/11/24	松江市立義務教育 学校八束学園	延べ150 名	2回

東部	飯南町頓原中学校 (次世代育成事業)	R3/6/24	飯南町頓原中学校	延べ40名	2回
東部	飯南町頓原中学校 (芸術家派遣事業)	R3/9/24	飯南町頓原中学校	延べ40名	2回
西部	鹿足郡吉賀町藏木小学校ワーク (次世代育成事業)	R3/11/2	吉賀町藏木小学校	20名	1回

③ 物販事業

しいの実シアター

貸館時に連携して、グッズや地域産品等の販売を行ないます。

昨年度末から今年度にかけての企画として、しいの実シアターの桜の季節を知つてもらおうと、「森の劇場でお花見をどうぞ！ 同時開催さくらマルシェ」を開催。公式LINEアカウントにより入荷情報を発信して、物品販売を行います。

かやぶき交流館

交流館に来場される方を対象に物販を行ないます。

<令和3年度事業計画> しいの実シアター指定管理事業

松江市から受諾している指定管理業務は、
公演を3事業、人材養成を5事業、交流を3事業の合計11事業を実施します。

公演事業1

事業名	「セロ弾きのゴーシュ」学校公演 	入場者数 参加者数	240人			
趣旨・目的	<p>「セロ弾きのゴーシュ」は、30年間に約200回上演し、アメリカ・カナダの3つの国際演劇祭では、6つの国際賞を受賞している。令和元年度には、ブルガリア大使館の招待で、首都ソフィアの「シティマークアートセンター」及びブルガスの「国立人形劇場ブルガス」でも上演し、大使館関係者、行政関係者、演劇人、音楽家、学生、親子連れが詰めかけて、スタンディングオベーションで盛り上がる等の成果を得た。いずれの会場でもセリフの6割をブルガリア語に変更して上演し、長年の願いだった「セロ弾きのゴーシュ」をしいの実シアターの宝として活用する計画が形となってきている。</p> <p>今年度は、配役を変更して、より作品のクオリティを高めて上演する。</p> <p>セロ弾きのゴーシュが、楽長にひどく叱られて10日間不眠不休で努力して演奏を仕上げていき、動物たちに助けられていたことに気づく結末は、子どもたちにとって貴重な体験となるだろう。設備の整った小さな劇場で、クラスの全員で観劇することは、コロナ禍の今、大変重要なことである。</p>					
事業の概要	<p>【演 目】 セロ弾きのゴーシュ（上演時間 60分） 【原 作】 宮沢賢治 【演 出】 園山土筆 【実施日程】 令和4年1月17日（月） 【実施回数】 3回 【対 象】 八雲小学校、八雲中学校、来待小学校の児童・生徒 【出 演 者】 しいの実シアター専属劇団ほか</p>					
事業の特徴、利用者拡大のための工夫点又は戦略等						
<ul style="list-style-type: none">・学校の送迎バス費用を一部負担して、学校単位で観劇できる機会を提供する。・演出家による解りやすい「あらすじ」を、あらかじめ学校で配付しておく。						

公演事業2

事業名	「プラボー！ファーブル先生」公演  しまね社会貢献基金支援「演劇をしまねで創る魅力発信事業」	入場者数 参加者数	800人
趣旨・目的	<p>シアター専属劇団の演出は、開館以来26年間、園山土筆が行ってきたが、新たな事業展開の広がりを目指して、東京から若手演出家・小林七緒氏を招へいして「プラボー！ファーブル先生」を上演する。</p> <p>この新作は、「昆虫記」を書いたファーブルが二十歳のころ、貧乏小学校で教師として働いていたときのエピソードをもとに、劇作家の平石耕一氏が書き上げたもの。ファーブルが、昆虫や生き物に愛情を注ぐだけでなく、ものごとの真実を見つけ出そうとする探究心や、先生と生徒の心のつながり、家族の在り方などを描いており、コロナ禍で、身近な人との関係性を見失いそうになった現</p>		

	代人へ提供するにふさわしい作品である。出演者は、専属劇団員だけでなく全国公募の中から選抜した結果、東京 4 名、福岡 5 名のほか、津和野、境港、松江市在住者など合計 17 名が決定した。出演者が各地から通ってくる稽古回数は平均 13 回である。稽古の度毎に通う中で、シアターの良さを深く知ることになり、関係人口、交流人口などの面でも成果が期待される。加えて、それぞれが居住地に帰ってから周囲の人たちに伝えると共に、その地からの誘客も行うことが期待される。
事業の概要	<p>【演 目】 ブラボー！ファーブル先生（上演時間 80 分）</p> <p>【脚 本】 平石耕一 【演 出】 小林七緒</p> <p>【実施日程】 令和 3 年 10 月 17 日、31 日、11 月 14 日、28 日（いずれも日曜日）</p> <p>【実施回数】 8 回 【対 象】 小学生から高齢者まで</p> <p>【関連事業】 全稽古を公開し、誰でも自由に見学できる環境を整える。また、土曜日夜にゲネプロ（本番直前のリハーサル）を公開することによって、日曜日勤務の大人が子ども連れて安価で観劇できる機会をつくり、演劇への興味・関心を育てる。</p> <p>【稽古公開】 無料 【ゲネ公開】 大人 500 円、子ども 300 円</p>
	事業の特徴、利用者拡大のための工夫点又は戦略等
	<ul style="list-style-type: none"> ・創作現場の様子を SNS で発信し、公演への期待を高める ・上演前後の解説により作品理解を深め、口コミでの PR を行っていく

公演事業 3

事 業 名	幼稚園・保育園・幼保園連携公演 	入場者数 参加者数	200 名
趣旨・目的	<p>「子どもたちの感性を育てる良質な作品」を届けるため、平成 13 年度から継続して 20 年が経過した。長年の取り組みによって、しいの実シアターのコーディネート力への信頼感が高まり、参加希望の施設が増えて、元年度は 11 施設が観劇した。</p> <p>令和 2 年度は新型コロナ感染拡大で中止となつたが、中止を決めた後も施設からの問い合わせ等があり、市内の園からのニーズの高さを示している。</p> <p>幼少期の体験は、本人の記憶には残らないかもしれないが、人間形成には大きく影響する。しかし、未就学児が劇場で公演を観る機会は極めて少ない現状の中で本公演は、なくてはならない事業である。</p> <p>また、この事業は、幼児だけでなく近隣の高齢者も誘客し、子どもたちの歓声や感動の声などが、同席する高齢者の元気の素にもなっている。</p>		
事業の概要	<p>【実施日程】 令和 3 年 6 月 17 日（木）～18 日（金）</p> <p>【実施回数】 2 回（各 2 作品）</p> <p>【演 目】『どんどこもんちゃん』 原作：とよたかずひこ（童心社） 構成・演出：加藤典子</p> <p>【あらすじ】赤ちゃんのもんちゃんが、山を越え、川を渡って、クマを投げ飛ばし、まっしぐらに進む痛快物語。最後は誰もが納得して笑顔になつてしまふ大人気絵本の人形劇化。</p> <p>【演 目】『カミナリカレー』 作：和田周子 演出：ちゅうから屋</p>		

	<p>【あらすじ】一人暮らしのおじいさんの家に、カミナリ坊やのゴロちゃんが落ちてきた。ケンカしたり一緒にカレーを食べたりした二人。ほんの短い出会いだが、別れた時、心にぽっかりと穴があいてしまう、という年の離れた二人の友情物語。</p> <p>【出 演】人形劇団むすび座（名古屋市）</p>
	事業の特徴、利用者拡大のための工夫点又は戦略等
	<p>①松江市内に住む未就学児の最初の劇場体験機会をつくる。小さな劇場だからこそ幼児にとって最善の施設であり、感動的な体験を味わうことができる。</p> <p>②幼稚園・保育園・幼保園には直接声掛けをし、ニーズや困りごとを聞き取り、事業内容をブラッシュアップする。</p> <p>③在宅母子の母親に抱かれた乳児は、舞台を見るよりも母親の喜ぶ表情や体から伝わる振動などを感じて、心が安定した時間を過ごすことができ、親子関係に良い影響を与えることができる。</p>

人材養成事業 1

事業名	俳優養成のための短期創造講座		入場者数 参加者数	延べ 100 人
趣旨・目的	<p>新国立演劇研修所（東京）との連携関係が大変濃いものとなり、研修所修了生を講師として招いて、地域で演劇を学ぶ人たちとシアター専属劇団員が共に舞台俳優について学べる機会をつくる。</p> <p>更に、この取り組みを継続的に行い、舞台俳優について本当に学びたいという人材が集まって学べる施設に育てていき、劇場の認知度を高めると共に、東京へ行かないでも、きちんと勉強できることを伝えていく。</p> <p>20 分程度の身体訓練メニューを繰り返し講師から学び、個々の不十分な個所を具体的に指摘してもらうことで、受講生は着実に内容を身につけることができる。</p>			
事業の概要	<p>【実施日程】 令和 3 年 6 月～令和 4 年 3 月</p> <p>【実施回数】 2 回</p> <p>【講 師】 新国立演劇研修所修了生 2 名</p> <p>【内 容】 思い通りの動きが出来る様な身体になるための基礎訓練</p> <p>【対 象】 舞台俳優として活動したいと思っている人</p>			

人材養成事業 2

事業名	高校演劇部支援事業		入場者数 参加者数	延べ 90 人
趣旨・目的	<p>島根県高文連演劇専門部松江地区に加盟する 7 校の演劇部生徒は、毎年 3 月、シアターで演劇の創造交流と演出・演技・舞台技術の向上を目的に継続的に合同公演実施しているが、平成 8 年から 23 年間にわたって全面的に支援してきた。特に、照明、音響については、他劇場のような規模の大きい劇場は使用料が高くて借りることができない。各種機材も高価であるため生徒が自由に使うことは制限されている。</p>			

	<p>シアターは小劇場であるため、集客も容易であり生徒たちの熱心さに応えて、音響・照明も自由に使用させている。また、機材の取り扱い方や効果的な使用方法も指導しているため、生徒たちは毎年この合同公演を楽しみにしており、年々客席も埋まってきている。</p> <p>レベルアップを図りたいとする生徒たちのために、専門人材を講師として演出、演技、照明、音響について指導する。</p>
事業の概要	<p>【実施日程】 令和4年1月～3月</p> <p>【実施回数】 2回</p> <p>【講師・内容】 ①戯曲の読み方、演出の仕事・・・園山土筆 ②俳優の仕事、観客対応について・・・有田美由樹 ③音響の仕事・・・黒田徹 ④舞台監督・照明の仕事・・・黒田徹</p> <p>【対象者】 松江南高校、松江東高校、松江商業高校、松江工業高校、情報科学高校、松江農林高校、開星高校の演劇部員と教員</p>
事業の特徴、利用者拡大のための工夫点又は戦略等	
<p>①高校演劇部が一番課題としている照明操作について、可能な限り長く操作卓を操作できる時間を確保する。</p> <p>②単一の学校では、照明・音響担当はそれぞれ一人で孤独に行わざるを得ないが、合同公演の強みを生かし、4～5人体制で対応できることを踏まえ、講師からより効果の高いやり方を提案し、舞台技術への興味関心を高める。</p> <p>③座学ではなく、生徒の自主性を重んじながら指導を進めていく。</p> <p>④事前に演劇部顧問と交流、意見交換を行い、現状の課題を克服する方法を考えながら事業を進める。</p> <p>⑤将来、シアターをホームグラウンドとして演劇活動を続けていけるよう劇場の良さを伝えていく。</p> <p>⑥合同公演には、観客として参加する家族や友人の高校生が当劇場を訪れるため、新たな観客に「しいの実シアター」のことを知ってもらう機会になる。</p>	

人材養成事業3

事業名	大学との連携 インターンシップの受入れ	文化庁	入場者数 参加者数	2名
趣旨・目的	①学生が芸術に関心をもち、劇場関係者や演劇鑑賞者として育っていくこと。 ②舞台芸術の実情を知り、どのように社会の役に立っているかを認識すること。 ③劇場業務の楽しさ、必要性を理解すること ④「しいの実シアター」の存在とその価値を知ること。			
事業の概要	<p>【実施日程】 令和3年9月～令和4年3月</p> <p>【実施回数】 2人×3回</p> <p>【講 師】 園山土筆、有田美由樹</p> <p>【内 容】 座学（指定管理者制度について、劇場法について） 体験（広報活動、施設整備、専属劇団）</p> <p>【対 象 者】 文化政策、地域づくり、アートマネジメント、芸術創造等に興味・関心をもっている大学生2人</p>			

事業の特徴、利用者拡大のための工夫点又は戦略等
<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと島根定住財団が実施する「インターンシップ募集」に応募した学生を受け入れる。 ・劇場内部の業務体験だけでなく、大学生が専属劇団員、ボランティア、地域住民と交流できる機会をつくり、地域の中での劇場の在り方を学ぶことができるようしている。

人材養成事業4

事業名	しいの実シアター未来学校 ごうぎん島根文化振興財団助成事業		入場者 参加者数	のべ60人
趣旨・目的	<p>平成28年度から4年間継続実施している当事業は、芸術のもつ力で子どもたちに豊かな感性と生きる力を育み、将来的に未来の地域を創る人材として育成することを目指している。</p> <p>令和元年度の事業では、日常の学校生活では自分らしさを生かせていない子どもが、リーダーシップをとったり、自分で決めて自ら行動を起こしていたりと、活動によって自分に自信をもった様子が見えた。</p> <p>自然豊かな森の劇場、そのリラックスした雰囲気の中で自由に表現活動を行い、自分の心を開放させ、素直に人と関わる心地よさを体感することで日々の暮らしも安定すると思われる。穏やかな気持ちで生活できれば、人を受け入れる心も生まれ、学力も向上していく。このように、未来学校の経験が個々の実生活に良い影響を与えることで、多くの子どもたちやそれを取り巻く大人たちにも文化芸術の効用や魅力を実感してもらえるよき機会となるはずだ。</p> <p>令和2年度は、コロナ禍により開催を中止したため、3年度はぜひとも実施したい。</p>			
事業の概要	<p>【実施日程】 令和3年8月4日（水）～6日（金）</p> <p>【実施回数】 3回</p> <p>【講 師】 田中小百合（NPO法人明るい生活・代表） 園山土筆、有田美由樹</p> <p>【対 象 者】 小学生～中学生 20人</p> <p>【内 容】 コミュニケーションワークショップ、 オリジナルの劇づくり（題材は絵本から、参加者が選ぶ）</p>			
事業の特徴、利用者拡大のための工夫点又は戦略等	<ol style="list-style-type: none"> ①参加者の主体性を大事にし、結果には拘らず、過程を重視する ②参加者の小さな努力やオリジナリティを評価することで、成長を促す。 ③集団行動の苦手な子どもへの参加のハードルを下げるため、3日間の内、1日だけでの参加も可能とする ④「劇場探検」を実施することで、劇場を身近に感じさせる ⑤都会地から里帰りしている子どもも、普段の環境とは違う自然豊かな環境で未来学校を体験できるよう、夏休みに実施する ⑥平成28年度から継続して参加している子どもと初参加の子どもが混ざり合った集団で活動することで、初参加の子どもが経験者の雰囲気に自然にリードされ、独立心をもつようになる ⑦異年齢の集団の中で、参加者同士で学び合うことができる 			

人材養成事業 5

事業名	演劇祭アートマネジメント研修		入場者数 参加者数	のべ 20 名
趣旨・目的	<p>シアターでは、<演劇による人づくり・まちづくり>をテーマとして、平成 11 年から 19 年間継続して 3 年毎に国際演劇祭を開催し、市民ボランティアは、毎回、研修の度にスタッフワークを向上させている。</p> <p>平成 29 年度に開催した 7 回目の演劇祭は、文化政策が専門の大学教授や公立文化施設協会、芸団協などの視察者から、過去の演劇祭から大幅に成長したと評価された。</p> <p>しかし、演劇祭開始から 20 年もの年月が流れた今日、組織体制や接客方法を今の時代に合った形に変化させる必要がある。</p> <p>今年度のワークは、県外客が演劇祭に何を期待しているのか、その気持ちを満足させ、「また来たい」「他の人に紹介したい」と来場者の思い出に残るスタッフワークを考える。受講対象者はボランティアリーダーを任される人材のため、自ら実行するだけでなく、新人ボランティアクルーにも伝達・指導できるようにする。</p>			
事業の概要	<p>【実施会場】 しいの実シアター</p> <p>【実施日程】 令和 3 年 5 月～令和 4 年 2 月 【実施回数】 3 回</p> <p>【対象】 演劇祭フェスティバルクルー</p>			

交流事業 1

事業名	森の劇場でお花見を！	入場者数 参加者数	のべ 200 名
趣旨・目的	<p>シアターの敷地に植えた桜が二十数年経過し、テングス病対策などの手入れを行なった結果、見事な花を咲かせるようになった。堆肥も選定して毛虫がないように配慮している。</p> <p>桜の開花に合わせて、お茶サービスやミニマルシェを開催して誘客し、演劇に対して興味・関心の薄い市民にも来場機会をつくり、シアターへの親近感を感じてもらう。</p> <p>また、来年度開催する国際演劇祭のボランティア養成も兼ねて、市民ボランティアの協力も得る。</p>		
事業の概要	<p>【実施日程】 令和 3 年 3 月 31 日から 4 日 4 日 お茶サービス 4 月 3 日（土）～4 日（日）ミニマルシェ 約 10 店</p> <p>【実施会場】 しいの実シアター 中駐車場</p> <p>【広報】 松江市報、山陰中央新報、マーブルテレビ チラシを 3000 枚印刷して公立施設等に設置 その他、SNS 等で広報を行なう。</p>		

交流事業 2

事業名	春秋の草刈り事業	入場者数 参加者数	のべ 30 人
趣旨・目的	市民ボランティアを募って、シアター職員、あしづえ劇団員と共に、2600 坪の敷地内の草刈りを、春秋 1 回ずつ実施する。これにより以下の効果を目指す。 ①指定管理経費の削減に努める。 ②職員・団員との協働作業で、劇場に対する市民的好感度・愛着度を高める。 ③市民と共に作業を行なって交流を図り、共に整備された劇場環境をつくることで、市民的好感度の高まりを期待する。		
事業の概要	【実施日程】 令和 3 年 5 月 8 日（土） 10 月 3 日（日） 【実施会場】 しいの実シアター敷地内（2600 坪） 【参加者】 シアター職員、専属劇団あしづえ団員、市民ボランティア		

交流事業 3

事業名	落ち葉集め エコ活動	入場者 参加者数	30 人
趣旨・目的	敷地内の落ち葉は、コンテナ車およそ 2 台分になる。今までの各種事業に参加・来場した人たちに呼びかけて、落ち葉集めを実施する。 ①指定管理経費の削減に努める。 ②落ち葉は造園会社に回収してもらい、翌年のシアター樹木の施肥に活用する。 ③幼児を含めた家族連れでも参加できる事業であるため、職員や劇団員と交流し、シアターへの愛着度を高めていく。近年は、子どもたちが家庭で労働することが激減しているため、保護者からは大変喜ばれている。 ⑤整備された劇場環境をつくることで、一般来館者の好感度が高まっていく。		
事業の概要	【実施日程】 令和 3 年 11 月 21 日（日） 【実施会場】 しいの実シアター敷地内（2600 坪） 【参加者】 シアター職員、専属劇団あしづえ団員、市民ボランティア 未来学校等の各種事業参加者等		

貸館事業

事業名	主催者居住地	利用者数
松江市観光協会 時代を掴むトークライブくるま座	松江市	約 100 名
東武トップツアーズ 赤穂市立高陽中学校吹奏楽練習	福山市	26 名

施設管理

<目標>

1. シアターの景観と森づくりを継続する

令和元年度から開始したシアターの森の整備により、明るく爽やかな森に変わって当初の予想をこえる良好な景観が生まれ始めている。今後も市民に喜ばれる景観づくりを継続して、公演の無い時でも市民が訪れるようなく愛される劇場>に育てていく。

2. シアターの認知度を高める

中駐車場にあった平屋の倉庫兼アトリエが事務所棟として改築されたことにより、シアターの2階にあった事務所部分を移転した。事務所が2階にあるときは、訪問客が2階まで上がることを敬遠していたが、1階に移った今では、近隣住民や訪問客が度々訪れるようになり、シアターの事業等に関心を持ってもらえることが増えた。この訪問によって、シアターの現状や事業の成果等も伝えることができる。

令和4年度に開催を延期した「松江・森の演劇祭」の準備等にも、市民ボランティアが訪れやすくなりコミュニケーション形成に役立てていきたい。

<課題>

1. 劇場の存在を周知するための案内標識設置を求めていく

シアターの存在を表す標識は、旧八雲村がシアター建設時に立てた案内板だけで、当時の八雲村内にのみ設置されているだけである。合併後16年経った現在では、シアターを訪れる人は、東京から九州まで幅広くなった。また、県外や市の北部から自家用車で来場する観客は、道案内の標識がほとんど無いため、運転中に不安が生じるとの感想がある。

国道、県道、市道に設置する案内標識のほか、市の公共施設としての存在を表すための名称看板の設置もお願いしたい。令和4年度は、松江・森の演劇ゾーンでの国際演劇祭も開催する。看板等設置については、近在のかやぶき交流館名も入れたい。

看板設置についての必要性を求めていく。

2. 和式トイレ等を洋式シャワー付きトイレに

シアター1階の来客用男子トイレの大便器は1つあるが、和式である。女子トイレは、1つが和式トイレで、2つがシャワーなし洋式トイレとなっている。多目的トイレもオストメイトトイレではない。また、2階の男女共用トイレはシャワーなし洋式トイレである。

さまざまな障害や高齢化、感染症対策、また、国際演劇祭で外国人も使用することなどを考慮して、社会情勢に合わせたトイレへの変更を要望していく。

3. 敷地内の法面が崩落の危険性を孕んできている

シアターの敷地法面に植栽された樹木が大きくなつて太い根が地面を張つてきている。そのため、所々法面の岩盤に穴があき、風化も伴つて崩落の可能性を孕んできている。今後、観察を継続して、大事に至る前の対策を求めていく。

4. 劇場敷地面積の確定について

劇場敷地面積については、指定管理者仕様書には 8155.62 m^2 と記載されているが、地積図のどの部分に当たるのかが不明で、森を整備する際も草刈作業を業者に委託する際も明確に指示することができない状況である。平成27年度からお願いしているが、引き続き敷地エリアの決定を求めていく。

かやぶき交流館指定管理事業

<貸館事業>

- ・しいの実シアター及び町内の各種事業と連携して利用増に努めます。
- ・貸館利用を推進するため、しいの実シアター事業の広報活動に合わせて、かやぶき交流館の広報も行います。また、SNS広報も実施します。

<連携事業>

事 業 名	日 程	内 容
こいのぼり掲揚	5/16(日)～6/5(土)	今年度は、実行委員会主催の鯉のぼり掲揚時期に合わせて、かやぶき交流館も掲揚する。寄付を兼ねたミニオリジナルの鯉のぼりの販売も行う
来て！見て！やぐも収穫祭	11月	町内イベントに参加

<施設管理>

アプローチの 改修工事	駐車場から建物に入るまでの通路が凸凹で、改修工事を要望していた。 今年度修繕されることになり、秋には施工予定となった。
----------------	--

<課題>

駐車場の白線引き	駐車場の安全管理及び、しいの実シアターの事業開催時、駐車場スペースが不足し、かやぶき駐車場を利用するが増えていること等により、業者による白ライン引きが急がれる。
かやぶき屋根工事 の事前調査	北側の屋根は苔が生えてきて、積雪のあと苔といっしょに萱も落下している。その分、屋根が細ってきているので、早めの調査を要望している。

<令和3年度事業計画>

松江・森の演劇祭委託事業

第7回は、2022年11月3日（木・祝）から6日（日）に開催します！
 〈松江・森の演劇ゾーン〉での初めての演劇祭です。

会場計画

会 場	使 用 計 画
しいの実シアター	一般向けの演劇作品の上演
しいの実シアター・事務所棟	演劇祭運営本部
しいの実シアター・休憩棟	チケットセンター
しいの実シアター・駐車場・テント	上演待合スペース、出店者によるカフェ、観客及び来場者の休憩スペース
平原会館	子ども向けの演劇作品の上演
平原農村公園・大型テントほか	家族向けの演劇作品の上演、子どものスペース
かやぶき交流館	カフェ
かやぶき交流館・駐車場・テント	出店者によるフェスティバル・マルシェ

準備計画

準 備 計 画	内 容
新体制づくり	令和2年度、運営本部とフェスティバルクルーを含めた実行委員会の新体制プランを作成したので、SNS やオンライン会議などで情報共有し、機動力が高まるよう進める。
出演団体との連絡調整	2020年の開催時に出演予定であった団体との連絡調整を行う。
新たな出演団体の選定	海外において、コロナ禍の影響で劇団存続が不可能となり参加できない劇団がある場合は、国内外の代替え劇団を選定する。
コロナ対策	新型コロナウィルス感染拡大の状況を見ながら、適切な感染予防対策に向けた準備を行う。
広報	L I N E 公式アカウントにより、充分な活用を進める。
ホームページの見直し	非言語や台詞のない作品も上演することから、聴覚障がい者や高齢者へ情報提供し、小さい子ども連れの家族向けには、託児対応や授乳・おむつ替えのスペースがあること等も伝えていく。
英語ホームページの作成	演劇祭の情報だけでなく、森の演劇祭ゾーンの景観や自然についての魅力も国内外へ発信する。
新ロゴの作成	演劇祭ゾーンが確立したことにより、新しいロゴを作成して国内外へ各種広報物を作成して広報していく。